

研修テーマ 「幼児期に育てたい力」を育む環境や援助の工夫
～遊びの中にある資質・能力を読みとって～

教諭班は、若手職員（1～3年目）、学年別、少人数保育、預かり保育の4グループに分かれ、それぞれのグループに合った研修を行った。

各グループで新しい研修方法を取り入れ行っていった。また、教材等の情報交換をしたり、次回の持ち寄る教材についても話し合ったりした。助言者の園長先生にはグループ協議に入っ

ていただき、御指導、御助言をいただきながら、研修を深めていった。
全体会では、幼児教育・保育課 副主幹 新谷知香枝 氏から講話をいただいた。



< 若手職員 >

- ・ 自分の言葉で子供の様子が語れるよう、子供たちの遊びを楽しむ様子の写真1枚とその週の週案（日案）を持ち寄り、その場面を選んだエピソードや教師の願い、援助、環境構成を振り返った。
- ・ 「幼児期に育てたい力」や「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」（10の姿）との結びつきを確認した。
- ・ 教材研究では、製作や運動会に向けての取り組み、集団遊びなど明日の保育につながる情報交換ができた。

★助言者の指導より★

3歳児

- ・ 教師の役割として、人的、物的環境がある。教師が子供以上に楽しく遊んでいき、わくわくしながら関わっていくと違う言葉掛けが出てくる。遊びながら信頼関係を築いていくことが大切である。
- ・ 3歳児は、自分が大事にされる体験、安定した園生活で教師への信頼感、自分の周りにはいろいろなことがある体験、自分の興味をもった子供の存在、集団でできるようになった経験など様々な体験をしていくことが大切である。

4歳児

- ・ 日々の子供の記録を書いていく。子供の実態をつかむことで、教師の願いや環境設定を考えていくことができる。また、整理ができ、子供の分析につながる。また、記録を書くことは保育の最大の振り返りにもなる。
- ・ 自分の苦手なことに対して、努力は必要である。完璧は求めなくて良いので、自分で解決策を見つけていくことも大切である。

5歳児

- ・ 年長7月の保育。自分のしたいこと、イメージを実現するために一緒に素材を用意し、試行錯誤している姿を見守ったり、言いたいことを相手に伝えるように整理したりしていく。
- ・ 心が晴れる職員間。近くにいる先輩にアドバイスを求めることが大切である。

< 学年別 >

- ・ 各学年共通の1枚の写真から子供の姿を読み取り、ねらう育ちや必要な環境構成、援助方法を「幼児期の終わるまでに育てほしい姿」(10の姿)に当てはめていき、グループで協議していった。
- ・ 教材研究では運動会や発表会などの情報交換をすることができた。

★助言者の指導より★

3歳児

- ・ 写真を見ての研修は、遊びの一瞬を見て子供の様子を判断する力がつく。子供が何をしているか、どう思っているか、明日は何をしたいのか等を読み取り、言葉掛けの仕方や援助方法を考えることができる。
- ・ ①安心感もてる教師の態度や環境づくりから始める。②教師自身が非認知の力を発揮する姿を子供に見せていく。③もめごととも肯定的に捉え、他者との出会いを支える。教師が真剣に対応している姿が子供たちの良いモデルとなる。この3つの力をバランスよく発揮し、コーディネートする力が教師には必要である。

4歳児

- ・ 日々の保育の記録が大切である。心に残ったことを記録し、心の動きや育ちを明日につなげていくようにしていく。
- ・ 学級経営の中で気になる子への対応の難しさがあるが、考えすぎてしまうと良さがなくなってしまうことがある。共感のまなざしをもって気付くことができることが大切である。そのためには教師の心の余裕が必要であり、周りに助けを求め、園全体で考えていけるようにする。
- ・ 保護者の思いに耳を傾け、何気ない言葉を大切にしていく。子供を認める言葉で保護者は前向きになっていける。

5歳児

- ・ 研修で使用する1枚の写真を選ぶこと、準備も学びにつながる。
- ・ グループ協議では1枚の写真から、子供理解を深めていけていた。資質能力、自園の教育課程・指導計画との整合性をはかっていることが大切である。10の姿は互いに絡み合っている。
- ・ リレーでの話し合いでは、話し合いに集中できる環境づくりだけでなく、支援が必要な子、気持ちののらない子も心地よく参加できる環境づくりや配慮が必要である。



< 少人数保育 >

- ・ 少人数保育カリキュラムについて、自分の保育と照らし合わせて思ったことや日々の保育で困っていること、悩みを話し合った。また、教材研究では、少人数ならではの集団遊びなど少人数保育に生かせる情報交換をすることができた。

★助言者の指導より★

- ・ 少人数ならではの資料をつくっていくのはチャレンジであり、魅力的である。
- ・ 子供の姿を捉えられているのか、教師と子供の思いにずれはなかったか、援助や環境は子供の実態に合っていたか、ねらう姿に近付けたか、1学期を振り返ることは大切である。少人数だからこそ、子供や保護者と一人一人丁寧に関わってほしい。
- ・ 少人数保育の悩みは多いと思う。分からないことや不安なことはそのままにせず、積極的に周りの先生に相談して行ってほしい。



< 預かり保育 >

- ・ 預かり保育について情報交換したり、教材研究について話し合ったりした。夏休みの過ごし方や壁面など預かり保育のことについての多くの情報交換をすることができた。

★助言者の指導より★

- ・ 異年齢交流の中で、年長児が年少児の世話をすることで、年長児がお兄さんお姉さんになった実感がもてる。その反面、やりたいことを邪魔されたり、思い通りにならないことも多かったりして、我慢が増えてしまう。相手への関わり方を学ぶ場になる。
- ・ 預かり保育での集団遊びなど、3学年で遊べる工夫をしていく。